

ひとつ屋根の下
プロジェクト
活動報告書 2016

特定非営利活動法人 街ing 本郷

ひとつ
屋根の下
プロジェクト
活動報告書 2016
特定非営利活動法人 街ing 本郷



発行：特定非営利活動法人 街ing 本郷
デザイン・印刷：タイラーデザイン事務所

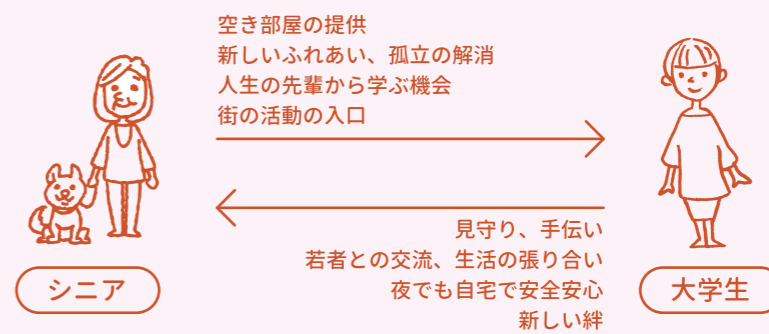
特定非営利活動法人 街ing 本郷
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-36-5
TEL：03-5844-6871（対応時間：火・木 10:30～18:30）
HP：http://m-hongo.com
E-mail：mating-hongo@nifty.com

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業



ひとつ屋根の下プロジェクトとは？

文京区に住むシニアの空き部屋を、大学生・大学院生が借りて共生するというものです。シニアと大学生が自分たちの生活を送りつつ、共通の時間を持ちます。例えば、夕食・団らんを共にしたり、地域の活動に共に参加したりします。



ひとつ屋根の下事業

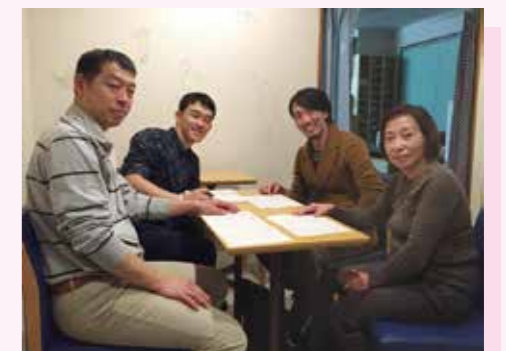
想い

シニアと大学生。普段の生活で関わり合う機会は、あまりありません。生まれ育った時代も環境も、今までしてきた経験も大きく異なります。だからこそ、お互いに強みを活かし弱みを補い合うことで、それぞれの暮らしをもっと豊かにできるのではないかと考えます。特に文京区は、東京大学をはじめ 19 の大学があり、全国でも有数の大学生が集まる街。大学生と地域の方を結びつけて、お互いが豊かな生活を築き、街に笑顔を増やしたい。それが、私たちの活動の根底にある想いです。



昨年度の活動

2014 年にプロジェクトを開始。シニアと大学生が「ひとつ屋根の下に住む」という新しい共生の形を目指して、シニアと大学生の募集や、共生のためのルール作りを進め、3 件のモデルケースを実施しました。



目次

ひとつ屋根の下プロジェクトとは？	p.3
学生とシニアが仲良くなる素地づくり	p.4
活動内容概説	p.5
ひとつ釜の飯	p.6
おやつ会	p.7
片付けお手伝い	p.8
出しもの	p.9
共生事業について	p.10
多世代共生連絡協議会	p.14
実行委員会	p.15
今年度活動のまとめ	p.16
メディア掲載	p.17
来年度方針	p.18

活動内容概説

ひとつ釜の飯

シニアと大学生が一緒にご飯をつくって一緒に食べる、食事会です。

「そんなに手間をかけなくても、
交流できるだけ楽しいよ」と声をかけられた



そこで、もっと気軽に開けるイベントを企画することに

おやつ会

シニアと大学生をメインに地域にお住まいの方が気軽に集い、おしゃべりを楽しむ”お茶会”です。

シニアの方と協力して
イベントを開催できるようになってきた



シニアの生活環境に踏み込んだ交流も行いました

片付けお手伝い

最近話題になっている片付け問題を大学生がシニアの自宅に伺い、ひとつひとつ相談しながら片付けのお手伝いをします。



大学生が出張で出し物

芸自慢の大学生が地域のお祭りや行事を盛り上げに伺うものです。漫才、マジック、ジャグリングなどなど。



シニアと大学生がお互いを理解しやすい環境をつくっていきました

今年度は、シニアと大学生が出会う場をつくりたいと考えました。
また、いろんな立場の人から意見をいただく機会を設けることにしました。



シニアと大学生が仲良くなる素地づくり



今年度の活動

共生のための第一歩として、シニアと大学生が仲良くなる素地をつくるために、さまざまな形の交流事業を行いました。お互いに交流する機会を増やすことで、「この人だったら家に入れてもいいかな」と思えるような関係が生まれるのではないかと考えたのです。もちろん、ひとつ屋根の下に住む共生事業も行いました。

ひとつ釜の飯

まずはシニアの方と仲良くなるために、食事をしながら気軽にお話をする場を設けました。



「ひとつ釜の飯」は、シニアと大学生が一緒にご飯をつくって一緒に食べる、食事会です。6月30日のひとつ釜の飯では、大学生6名が“生姜焼き”をつくってシニア22名をもてなしました。



参加した人の声

僕は料理を作るのが好きなんです。でもさすがに、30人分の生姜焼き定食を作るのは大変でした。シニアの皆さんに美味しいと言ってもらえたのは嬉しかったですね。一緒に食事をすると、会話も弾んで盛り上がりました。今後は、シニアの方にも料理を教えていただきたいです。



大学生
杉山さん

若い方と一緒に食事をしたり、新年会にもご協力をいただいたりしてきました。「ひとつ屋根の下プロジェクト」とは、昨年度から関わっていましたが、まずはこういう交流会を開いてから（参加した方に）「じゃあ次回は、近所の方や知り合いの方にもお声をかけて」という順序で、共生事業を始めていくとよかったのかなと思いました。

「お部屋が空いているからどうぞ」というのは、日本的な考えとしては、ちょっとまだ受け入れられるところが少ないのかなと思います。

ひとつ屋根の下の活動ということで終わりにするのではなく、若い人たちとの交流をさらに深めて進展させていけたら、とてもいい会になるかなあと思っています。



文京区消費者の会理事長
窪田さん

おやつ会

シニアの方に「こんな手間をかけなくても十分楽しいよ。次はおやつくらいでいいんじゃないかな。」とアドバイスをもらい、おやつ会を行いました。



「おやつ会」は、シニアと大学生をメインに地域にお住まいの方が気軽に集い、おしゃべりを楽しむ“お茶会”です。基本は大学生がシニアをもてなします。本郷・根津で4回実施。本郷の会では、本郷で和菓子屋「菟久月」を営む栗田さんの手作りお菓子がふるまわれました。根津の会では、根津にお住まいの方におやつを手作りしていただきました。



参加した人の声

手作りしていただいたおやつ、ほんまに美味しかったです。また食べたいです。私たちが開いたおやつ会のほかにも、消費者の会の新年会に呼んでもらって、おやつを食べながらお話ししたこともありました。自分たちで企画するだけでなく、おやつをご馳走になったり、シニアの方の催し物に呼んでもらえたりする機会も増えたらいいなと思います。

（第3回の根津の会では）和菓子の勉強をしていた近所の方が、たくさん差し入れをくださって、とても楽しく参加させていただきました。

私自身も若いときに、先輩の皆さんにすごくよくしていただいたという思いがありました。子育て中はその場でお返しができなかったので、自分ができる時になれば、お返ししたいと思っていました。

こういう会に参加して若い人たちと交流できることは、私たち自身にとってプラスになりますし、双方にとって良さがあると思います。開催もしやすかったですし、私たち高齢者には、こういう場があることも刺激になっていいんじゃないかなと思っています。



大学生
村上さん



シニア
宮田さん



シニアが困っていることのお手伝いをして
仲良くなろうということで始めたのが
片付けお手伝いです。



片付けお手伝い

シニアの生活にもう一步踏み込んでお手伝いをしよう
と考えた企画が「片付けお手伝い」です。本郷で便利
屋さんをしている木村さんにサポートしてもらって進
めました。11月~1月に8回実施しました。



参加した人の声

シニアの方の「空き部屋があっても片付
けるのは大変だから」という声をもとに、
学生との相性やコミュニケーションに対す
る不安だけでなく、空き部屋が片付いて
いないということがプロジェクトへの参加に
対する障害となっているかもしれないと考
え、シニアと学生の交流の機会及び片付け
が少しでも進むきっかけを作ることを目的
に実施した取り組みでした。

一定期間の関わりで、それまでにはな
かった新たな世代間交流が生まれ、双方に
とても有益となる影響があったことはお互
いの表情や行動から確信することができま
した。



街 ing 本郷理事
木村さん

私も片付けお手伝いに携わりました。おしゃ
べりの時間と片付けの時間どっちが長いかと
いうと、私はおしゃべりなので、8割くら
いの時間はこたつに入ってしゃべっていま
した。

そこで話しているときに「お茶飲むの？」
とシニアの方に聞かれ、「飲みたいんです
が急須ないんです」と言うと、「ちょっとま
つて」と言って戸棚から10個の急須を持
ってきてくださいました。1つでよかった
んですが、3つでも4つでも持っていきな
さいということで、3つもいただきました。
おいしく日本茶いただいています。そのほ
かにも、今履いている靴も譲っていただき
ました。あとカバンとかポットとか。

いろいろいただきまして、私の暮らしも
ちょっと華やかになりました。



大学生
村上さん

出しもの

「大学生が出張で出しもの」は、芸自慢の大学生が地域のお
祭りや行事を盛り上げて何うものです。漫才、マジック、ジャ
グリングなどなど。これまでは…

- ・9月6日(日) 11時~13時 春日2丁目町会敬老会
- ・1月21日(木) 13時~15時 NPO 法人文京区消費者の会 新年会
- ・2月14日(日) 14時~14時半 根津ふれあい館祭り
- ・3月6日(日) 14時~14時半 ひとつ屋根の下活動報告会
- ・3月13日(日) 16時~16時15分 文京区映画祭
- ・3月24日(木) 18時半~19時半 文京区高齢者クラブ金寿会



参加した人の声

僕は東大の手品のサークルに入っています。先日は春日2丁目の敬老会で、
手品を披露して来ました。いつもは学生に対してパフォーマンスをしている
のですが、違う年齢層の方に披露すると反応が全然違うので、いい修行にな
ります。出し物の後に、一緒にお話しして交流するのも楽しいです。



大学生：伊與田くん

消費者の会の新年会の時に来ていただきました。東大の学生さんが漫才をす
るって言うもんですから、何をするのかしらって、すごく不安に思っていたら、
すごく楽しくてね。マジックと漫才、両方なさってください。その後みんな
でお茶を飲んだんですけど、本当に楽しい会でした。勉強ばかりじゃなくて、
地域のためにユーモアもたっぷりのみなさんで、とても楽しい会になりました。



シニア
吉川さん

シニア勉強会

よりよい交流のために、独居シニアの声かけ活動をしている話
し合い員のOBの皆さんにアドバイスをいただきました。

アドバイス

- ・高齢者がほっとするので、挨拶などのちょっとした
声かけが毎日あるだけでもよい
- ・外出が困難なシニアと話す時には、旅行や映画の話は
避けるなど話題を考慮するとよい
- ・「イベントに参加した」という気持ちを全員が持って
帰られるように配慮するとよい



共生事業について

シニアと「ひとつ屋根の下に住む」という共生事業も進んでいます。今年度は、昨年度は考えもしなかった、いろんな共生の形が生まれました。



「共生」は、シニアの空き部屋やシニアの持つアパートの空き室を大学生が借りて共生するというものです。シニアと大学生が自分たちの生活を送りつつ、夕食、団らんを共にしたり、地域の活動に参加したりします。



今年度は、5人の大学生が、3人のシニアのもとで暮らしています。①シェアハウス型…シニアの離れの一軒家を学生3人でシェアしています。②下宿型…シニアの家の2階部分に学生が住んでいます。③アパート型…シニアの家の近くのアパートに住み、おすそ分けをしたり、地域の活動に参加したりしています。

1 case

シニア 60代 × 大学 4年生 (2015年4月～)、大学 4年生 (2015年6月～)、大学 4年生 (2015年8月～)

きっかけ

昨年度活動報告会にシニアの方が参加し、離れの一軒家の活用をご提案いただきました。3人の大学生がシェアハウスの形で入居しています。

シニアとの交流

離れのリビングで平日に開かれる朗読教室の時間の前後にご飯を一緒に食べたり、シニアの方の生業である演劇に参加したり、誕生日に合わせて夜ご飯を食べたりしています。

共生のルール

共用部分の掃除と、庭の手入れのお手伝いをしています。

参加した人の声

シニアの方は、離れの共用リビングでよく演劇のお稽古をしているので、交流もあります。僕も演劇に興味があり、よく話をしたり、一緒に観劇をしたりしました。2月には、舞台上で共演もしました。学校までは徒歩3分!家賃も安く本当に助かりました。かけがえのない出逢いになったと思います。(杉山くん)



大学生 杉山くん

今までだと「ちょっと無理だわ」と諦めていたことも、お互いにお手伝いし合いながらやれています。学生さんって若いし。新しい風が自分の中に入ってくるような、少し元気をもらっている感じがあります。(佐伯さん)



シニア 佐伯さん

2 case

シニア 70代 × 大学院 1年生 (2016年4月～)

きっかけ

シニアは昨年度のモデルケースを実施した方。シニアの方からの「寂しいから早く入れてよ」の声に、今年度もマッチングを行いました。年度末より再度居住が始まりました。

シニアとの交流

町内会長をされているシニアの方と一緒に地域活動に参加したり、夕食をときどき一緒に食べたりします。

共生のルール

月に1回の古紙回収と、餅つき大会などの町会活動や、NPO活動に参加すること

参加した人の声

主人が亡くなってもう7年が経ち、今は家に一人暮らし。私はいろんなことをやっけていて元気ですし、「そんな、若い人に世話になんてならないわ」と思っていました。

でも、学生さんを住ませてみれば、「一人じゃないな」と思えて、なんか楽しいんです。「ただいま」って帰ってくる人がいることに、すごく私は救われていたんです。

学生さんに町会の仕事をやらせてもらったら、「こんなに楽しく地域活動をしたこと今までなかった」と言われて、私もちょっと嬉しく思いました。学生さんとの距離感はそのように近くはないけれど、「誕生日祝いでご飯を食べようよ」なんてこともありました。

実は私、去年の暮れに、そうやって学生さんがいたことで命拾いしたんです。

朝、家を出ようとしたら、突然頭が内側からガンと叩かれたような気がして。とっさに、救急車を呼ばなきゃと思ったんですね。その時、一人だったら本当にどうしようもなかった。たまたま学生さんがいたので、すぐに救急車を呼んでくれたんですね。病名はくも膜下出血。幸いに今、ほとんど普通の生活をしてはいますが、それも人がそこにいたことで、命拾いしたんだなと思っています。まさか自分がそういうふうになるとは思いもしなかった。

このプロジェクトによって、本当に一人の命を救うことがあるんだということをお伝えしたいです。



シニア 小野寺さん

3 case

シニア 70代 × 大学 4年生 (2016年3月～)

きっかけ

プロジェクトでの「おやつ会」をきっかけに知り合いました。シニアの方から「近所の知り合いの大家さんが、空きアパートに居住する大学生を探している」との紹介を受け、面談。

シニアとの交流

大学生の引っ越し当日に、シニアの方が手作りの夕飯とトイレトペーパーを持ってきてくれ、ごみの処分の仕方についても伝授。たまにおすそ分けもいただきます。大学生は、シニアの方が携わっているイベントのお手伝いなどをしています。

共生のルール

お互いを尊重し、特になし

参加した人の声

当初は築年数などの居住環境を理由に、両親からの反対がありました。でも地域のシニアの方がすごくよくしてくれていたの、ぜひ近所に住みたいと思い、両親を説得して住み始めました。大学に近くて住み心地もいいですし、今では両親も地域のシニアの方に感謝しています。



大学生 村上さん

今年度はなかなか共生まで結びつきませんでした、
それらの特徴や原因をまとめてみました。



うまく共生に結びつかなかった事例

未成立事例

1

91 歳女性、戸建てに独居

概要

ご主人は 20 年以上前に他界。数年前の脳梗塞の影響で、介護保険を利用しているが、自立した生活を送っている。2 階の一部を 10 年以上前に下宿として貸していたことがあり、部屋が少しでも役に立つのなら使ってほしいと連絡をいただきました。

未成立の原因

大学生とのマッチングが進んでいましたが、シニアの娘さんの意向で施設に入ることが決まり、中止となりました。

分かったこと

ご本人からは、「自分の意思で参加するため、娘は関係ないから説明の必要はない」と言われていたものの、家族にも十分説明をすることが必要と分かりました。また、90 歳という超高齢となると、健康状態の急変や家族の理解に対する配慮の優先度は高くなると考えられます。

未成立事例

2

60 代女性、戸建てに夫婦で同居

概要

ご主人は現役で、ご本人も料理関係の団体に所属し活動されている。息子さんは所帯持ちで別居。昨年度の活動報告会を傍聴して、興味を持っていただきました。息子さんが東京大学の大学院を卒業されており、東大生を応援したいと、1 階にあるバストイレキッチン付きの独立した部屋を提供するとのことでした。

未成立の原因

ご自宅に訪問して事業の説明と居住設備の確認を行いました。しかし、その後ご家族の同意が得られないとのことで、立ち消えとなりました。

分かったこと

1 通常の賃貸物件として、十分に流通できる部屋であり、2 シニアが元気なため大学生に対して特別な要求がなかったため、家族に対し共生の意義を提示できませんでした。

未成立事例

3

85 歳女性、戸建てに独居

概要

20 年ほど前に母親が他界後独居。家族はなく、甥御さんが年に数回訪問。足腰が弱くヘルパーとデイサービスを利用されている。それ以外の外出や人との接触はほとんどないとのことでした。街 ing 本郷の理事よりプロジェクトの紹介を受け、交流目的で試してみてもよいということで参加していただきました。

未成立の原因

大学生と数回交流を行い、同居への関心が高まっていましたが、入居のための設備改修費用が捻出できず、立ち消えとなりました。

分かったこと

頻繁に出入りする大学生を不審に思ったヘルパーが、甥御さんに通報するという事態が起きました。シニアの周囲の方にも、あらかじめ事業への理解を得ておく必要があると感じました。

未成立事例

4

マッチングまで成功
東京大学 1 年生

概要

プロジェクトの説明会から参加。意欲的で、シニアとの相性や物件自体の満足度も高く、マッチング成立目前までスムーズに進みました。

未成立の原因

シニアとの共生の条件である「町会活動への参加」に強い興味を持てず、忙しさもあって時間を割けない不安があったこと、ご両親の賛同が得られなかったことから、辞退の申し出がありました。

分かったこと

忙しい大学生にとって、町会活動やオーナーとの交流が負担になることもあり、プロジェクトの狙いをしっかりと説明し、共感してくれるような大学生を選抜する必要があると分かりました。

未成立事例

5

マッチングの前段階で消滅
東京大学 4 年生

概要

プロジェクトの大学生メンバーの紹介により、応募が決まりました。

未成立の原因

内見やシニアとの顔合わせでは双方好意的だったものの、大学生のご両親の賛同が得られず、中止となりました。

分かったこと

大学生ならびに両親へのプロジェクトの説明が不足していました。大学生の両親に安心してもらえなければ、家賃が安いことはメリットにならなくなってしまうと分かりました。

多世代共生連絡協議会

行政や大学・地域団体など、文京区のさまざまな団体が協力できるような共生の形を探る場をつくりました。



少子高齢化や核家族化の進行により、公助の限界と地縁による共助の衰えが見られています。この現状に対して、子どもや若者、子育て世代、シニア世代が地域で交流を深める多世代共生が、重要な一つのキーワードとされています。そこで、先行事例を考察し、それぞれの立場で行動し、その情報共有と連携を図り、より相補的な共生を実現するために、世代間交流に取り組む文京区内の企業・NPO・個人、世代間交流に詳しい大学教授ならびに社会福祉協議会、文京区を招き、検討の場をつくりました。



- 【委員長】 辻哲夫氏（東京大学高齢社会総合研究機構特任教授）
- 【副委員長】 牧野篤氏（東京大学教育学研究科教授・高齢社会総合研究機構副機構長）
- 【委員】 諸岡健至氏（文京区町会連合会 代表）
春田孝二郎氏（文京区高齢者クラブ連合会 副会長）
三宅邦明氏（文京区在住 / 医療福祉有識者・厚生労働省職員）
三文字昌也氏（書生プロジェクト / 東京大学大学院 M1）
林育恵氏（多世代交流有識者 / (株) ツリー&ツリー 代表）
平石進氏（文京区社会福祉協議会）
- 【オブザーバー】 文京区福祉部高齢福祉課、区民部区民課 協働推進担当
- 【場所】 所文京区教育センター 会議室

協議会では、異なる世代の人たちがどうすれば助け合えるかについて、3回にわたり、各委員それぞれの立場から意見を出し、議論しました。

第1回 基調講演「海外での共生の事例の紹介と日本での普及について」 読売新聞社 南砂氏（読売新聞 東京本社 取締役兼調査研究本部長） 平成 27 年 10 月 22 日（木）14 時 30 分～16 時 30 分

南氏からフランスで移民の若者の活動が中心となり、若者とシニアの共生が成功している事例を紹介、日本での普及について話がありました。その事例をもとに「多世代共生社会とは何か」について、議論を通してその理解を深めつつ、各委員が取り組んでいる事業の情報共有などをしながら、お互いを理解しあう場として協議会を機能させていくことを確認しました。

第2回 各委員の活動紹介・連携可能なポイントを模索

平成 28 年 1 月 23 日（木）13 時～15 時

- ①学区を生かして子育てに地域の力を利用するという点で、小中学校や学童保育
- ②文京区に集中しており、バイタリティと時間において強い社会資源である大学生
- ③時間や持ち家、知識などの資源を持ちながら発揮しきれていない層もいる、シニアの3つの層が、相互に自己有用感やメリットを感じられて、無理なく自然に広がっていくような「学びあう」・「助け合う」仕組みが重要であるとわかりました。

第3回 多世代共生の取り組みの1つである「ひとつ屋根の下プロジェクト」を参考に議論

平成 28 年 3 月 1 日（金）13 時～15 時

各世代がメリットを享受しながら、違和感なく関わり合えるような関係とはどんなものかについての意見が飛びかいました。交流自体を目的とした活動は、特に大学生側の参加モチベーションを維持する点で難しく、シニアとの趣味の一致など、大学生の生活自体がより豊かになるような設計が必要との指摘を受けました。



実行委員会

シニアとの共生事業ならびに交流事業を実施している有識者、事業関係者を集め、プロジェクトに関し、進め方や内容について検討をおこないました。

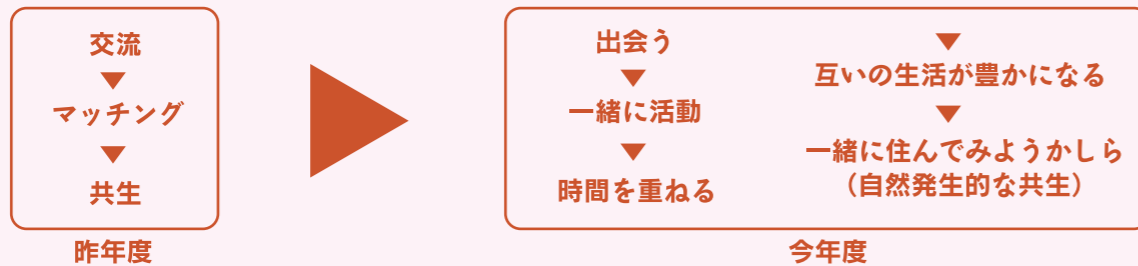
開催日程および提携団体一覧

- ・平成 27 年 6 月 14 日（日）NPO 法人リブ&リブ
- ・平成 27 年 10 月 15 日（木）NPO 法人ハートウォーミング・ハウス
- ・平成 27 年 12 月 17 日（木）福井大学菊池研究室、たすかりす
- ・平成 28 年 1 月 22 日（木）日本大学 久保田裕之准教授



今年度活動のまとめ

今年度も、ひとつ屋根の下に暮らす「共生事業」に取り組みました。今年度の特徴は、昨年度のモデルケースを踏まえて、より多くの共生を生み出そうと、共生につながる素地を作るための「交流事業」に力を入れたことにあります。多世代の共生や交流を進めるために、地域のさまざまな立場の人や、共生事業を進めている他団体と連携して、共生のあり方や、その進め方についての検討も行いました。



気がついたこと、分かったこと

「交流事業」では、大学生が手料理でシニアをもてなした最初の食事会で、「そんなに頑張らなくてもいいのよ」とアドバイスをいただき、気軽なお茶会を開くことにしました。お茶会は、シニアの方から差し入れをいただいたり、知り合った大学生とシニアの間でお互いの行事に参加しあうような関係ができたりして、とても盛り上がりました。

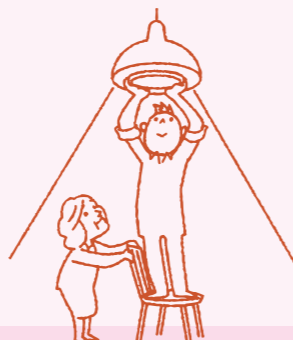
そこで学んだことは、「大学生がシニアに対して何かをする」という一方的な関係ではなく、「大学生がシニアを頼り、その力を借りる」双方向的な関係によってこそ、お互いにとってより良い関係を築いていけるということです。また、共通の趣味や身近な困りごとをきっかけにすると、シニアと大学生の両方が一緒に楽しく参加できるような活動になるということも分かりました。

「片付けお手伝い」では、何度もシニアのお宅に伺って一緒に作業をしたことで、これまでにない深い関係をつくることができました。無理なく一緒に過ごす時間を積み重ねることで、つながりが自然と強まるということが分かりました。

「共生・交流について話し合う事業」では、多世代共生連絡協議会の委員から、「交流から共生の間には連続性があると考えて行動することも大事だが、交流と共生は別物と考え、道筋を変えて検討することも必要なのではないか」という意見をいただきました。交流の先にあるゴールが、必ずしもひとつ屋根の下での同居というカタチでなくてもいいのではないかと気が付きました。

新しい共生のかたち

「共生事業」では、当初の想定よりも共生を実現した数は少なくなりました。しかし、これまでの「下宿型」の共生に加え、シニアの離れに大学生が共同で住みながら、オーナーであるシニアとの交流を行う「シェアハウス型」、アパートに住む大学生が、近所の複数のシニアと持ちつ持たれるの関係をもつ「アパート地域型」という新しい共生のかたちが生まれました。



見えてきた、共生のメリット

共生を始めたシニアと大学生の感想から、共通の趣味を通して一緒に活動することを楽しんでいるシニアと大学生もいれば、シニアからおすそ分けしてもらって、夕ご飯の品数が増えたと喜ぶ大学生もいるということが分かりました。また、大学生が素早く対応して、急病から命をとりとめたシニアもいました。人手が足りていないシニアの行事に、大学生が友人を連れてきて運営を手伝うこともありました。さらに、共生を通じたシニアとのつながりをきっかけに、大学生が地域活動に参加して、地域の他のシニアや住民とのつながりも広がりつつあります。

厳密な意味で「ひとつ屋根の下」に住まなくても、地域の大きな傘の下で、シニアと大学生が互いに楽しみながら、暮らしを豊かにするような特別なつながりをつくることができると分かりました。

これから必要なこと

一方で、シニアと大学生の共生が立ち消えとなったケースが7件ありました。その主な原因は、大学生やシニアへの説明が不十分で、家族からの同意が得られなかったことにありました。また、現在の生活様式に満足しているシニアや大学生が、生活上の大きな変化を望まなかったということも挙げられます。

シニアに対しては、一人でいたい気持ちを尊重したり、共生のために設備面でフォローしたりすることが必要です。また、共生ルール（シニアとの交流、地域活動への参加等）に馴染めずに大学生が辞退するケースもありました。大学生にとって負担にならないような仕組みづくりが必要です。

その他にも、シニアや大学生およびその家族が安心して参加するためには、契約などの法律上の位置づけを明確にして、リスクへの対処もすすめる必要があります。

メディア掲載

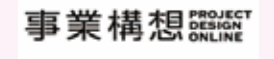
ホームズプレス

2015年08月28日
homes.co.jp/cont/press/rent/rent_00216/



事業構想__人間会議

2016年01月
projectdesign.jp/201601/ningen/002669.php



東洋経済オンライン

2015年11月24日
toyokeizai.net/articles/-/93691



オウチーノ

2016年03月17日
o-uccino.jp/article/archive/kurashi/
20160317-hitotsuyanenoshita/



団塊シニア世代のための

Web情報アリア
2016年03月24日
arias.co.jp/seniorlife/0011.html



第三回 広告業界の若手が選ぶ、
コミュニケーション大賞
最終選考ファイナリスト

jaaa.ne.jp/2016/04/4363/

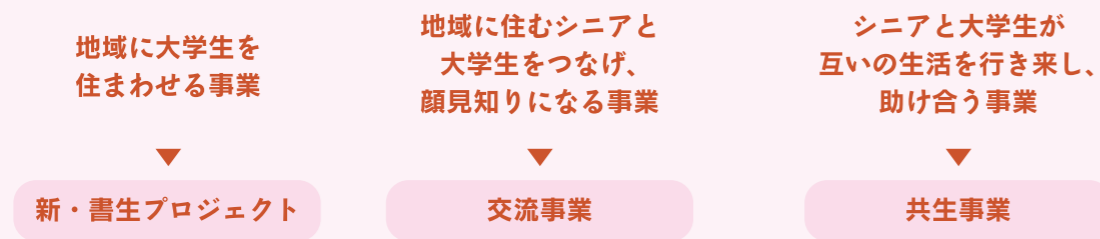


今年度の活動を通して分かったことを土台に
来年度の方針を3つ検討しています。



来年度方針

「ひとつ屋根の下」プロジェクトが目指すことは、シニアと大学生が、お互いに強みを活かして、お互いの生活を豊かにしていく関係をもつペアをより多くつくること。来年度は、地域を大きな「ひとつ屋根」と見立てて、その「ひとつ屋根の下」でシニアと大学生が居住し、交流し、助け合う共生をより多く作っていきたくて考えています。



新・書生プロジェクト

NPO 法人 街 ing 本郷が 2012 年に始めた、地域活動に参加することを条件に、家賃を減免して地域のアパートに大学生を住ませるプロジェクトを拡大。



交流事業

大学生が、地域のシニアと顔見知りになるための事業。何度も交流することで、気が合い、お互いに助け合える関係を築くことを目的としています。来年度は以下の内容を考えています。

- ◆おやつ会
- ◆学生が出張して出し物
- ◆シニアの家にある不用品のバザー
- ◆大学生がシニアに料理を教えてもらう会

また、交流をより有意義で楽しいものにするために、地域だけでなく、シニア団体・大学生団体と連携・協力を進めます。



共生事業

来年度は、よりシニアと大学生の多様な共生のあり方を創出していけると考えています。現在想定しているモデルは以下の3つです。

